

子ども・若者みらい提案実現プロジェクト受賞提案一覧

<最優秀賞 3件（小学生部門 1件、中高生部門 1件、若者部門 1件）>

提案者（団体）		タイトル	概 要
小学生部門	旭小学校 6 年生	DREAMS COME TRUE KANAGAWA からの贈り物	子ども達に贈るためにおみやげを買う人は多いが、子ども達目線のおみやげがない。 そこで、自分たちが考えるおみやげを提案したい。具体的には県内の農産物やゆかりのある食材を利用したおみやげ（ラスク）の開発を行う。県内各地域をイメージした味を、各地域の子ども達と交流しながら考え、地域の良さやつながりを感じることができる。
中高生部門	森 花菜	体験学習×地域創生『りふれく CAMP』	真鶴町に引っ越して、自然の素晴らしさに感銘を受けたが、一方で人口減少の問題がある事を知った。 町に小中高生を招き、地域活動や職業体験を盛り込んだキャンプを実施する事で、真鶴町の魅力を発信し、地域への移住促進と、体験格差の是正を図る。
若者部門	みちくさラボ	『ヤギが待っている！ 行きたくなる学校プロジェクト ヤギの学び舎 1 か月留学システムの導入』	“行きたくなる楽しい学校”にするために、希望する県内の学校で、学校飼育動物として1ヵ月ヤギ及び飼育道具一式をレンタルする。 動物が人を癒し、人と人をつなぐ力が、学校が抱える学級崩壊や不登校児の問題解決につながるのではないかと思う。

<優秀賞 6件（小学生部門 2件、中高生部門 2件、若者部門 2件）>

提案者（団体）		タイトル	概 要
小学生部門	認定NPO法人 あっとほーむ 4年生プロジェクト	子どもの子どもによる子どものための「おゆずり会」	まだ使えるのに、もう使わなくなったものがゴミになってしまうのは問題だと思う。 そこで、子どもを主体とした（市区町村規模の）学校教材等の不用品譲渡会を開催する。不用品を買い取ってくれる会社に協力をお願いし次の年の開催資金にしたり、入学前の説明会などを同時に開催する等の工夫も行う。

小学生部門	はじめ塾	お年寄りや大人のためのスマホ、パソコン教室	スマホやタブレットの扱いを得意とする子ども世代が高齢者に使い方を伝える教室を開催し、逆に子どもはおやつをもらったり、勉強を教えてもらう。 高齢者と子ども達が交流する場所ができることで、町が明るくなる。知っている人が増えれば、子どもの安全にとってもいいと思う。
中高生部門	子どもの輪 -起立性調節障害を当事者から広める会-	起立性調節障害リーフレット配布 正しい理解で当事者の過ごしやすいまらいへ	現在、起立性調節障害は小学生の約5%、中学生の約10~30%の有病率と言われているが、正しく理解されているとは言えず、当事者は辛い思いをしている。 周囲の理解が進み、当事者等が過ごしやすい社会となるように、起立性調節障害の発症の多い小中学生とその家族や教員を対象として、リーフレットを作成し、配布する。
	NPO 法人あおば学校支援ネットワーク	お仕事魅せまショー	日本は外国と比べて、未来に希望を持ってない若者が多い。 未来と言われて真っ先に思い浮かぶ「仕事」について、知る機会がないことが不安につながってしまうため、職業体験イベントを行う。 各職業の若い世代の人から仕事の説明をしてもらい、参加者は興味のあることを見つけ、未来をイメージできるようになる。仕事を伝える若い世代の働き手も自分の仕事に誇りを持てる。
若者部門	谷口 賢史	千木良の農福連携による共に生きる地域の再構築	以前は津久井やまゆり園の利用者と地域の交流があったが、2016年の事件をきっかけに交流が減ってしまった。 園内で津久井在来大豆やハーブを栽培し、地域住民と入所者が共に農作業を行う事で、障害者の方の活躍の場づくりと、障がい者入所施設と地域のつながりの再構築を図りたい。
	大塚 航	子どもと高齢者と不登校児の、子ども食堂での交流を通じた地域の「核」づくり	フリースクールやサポート校に通う中高生が、地域の高齢者から料理を教わりながら作り、作った料理を子ども食堂で提供するなど、食を中心とした地域交流を行う。 高齢者を含む地域住民との交流を通して、不登校児のコミュニケーション能力不足の解消や、災害時の避難支援につなげたい。